

視察報告書

発行No.	S-240116
作成日	2024.1.23
作成者	佐原充恭

視察地	東京都板橋区	日時	2024.1.16(月) 13:30～15:00
視察テーマ	板橋区ゼロカーボンシティ表明について		
視察目的	刈谷市同様、ゼロカーボンシティ(R4.1.26)を表明している同区の脱炭素の取り組みを学ぶ。		
視察メンバー (敬称略)	深谷英貴、中嶋祥元、鈴木定晴、佐々木隆教、伊藤愛恵、佐原充恭(記)		

1. 「ゼロカーボンいたばし2050(ゼロカーボンシティ表明)」の概要

出典: 当日頂いた資料及び板橋区HP

人と緑を未来へつなぐスマートシティを推進し、持続可能な社会を構築するため、**気候非常事態を宣言し、あらゆる主体と連携・協働**して社会全体の自主的な行動変容を促すとともに、**エコロジー、エネルギー、エコノミー**が調和した取組により、**2050年に二酸化炭素排出量実質ゼロ**をめざす。

2. 取り組み内容

取り組み項目	具体的取り組み
エネルギーの効率的な利用、再エネの利用	ごみ処理施設の余熱利用など、 再エネの地産地消 に取り組んでいる。 ※高島平の再生にも活用 したい。 ※老朽化や少子高齢化が進む高島平の再生に、スマートエネルギーの導入をはかる取り組み
環境配慮型製品やサービス、資源の循環	荒川沿いのリサイクルプラザで びん・缶の安定的循環 や、 リサイクル品の販売 に取り組んでいる。
スマートインフラ、DX活用	タブレット活用、ペーパーレス化、オンライン手続き 等を進めている。
区民や事業者との連携	板橋環境アクションポイント事業 (電気・ガスの使用量を前年と比較し削減できた区民・事業者のポイントを付与)を実施中。
再エネ100%電力の導入	高圧受電設備のある公共施設を中心に、 R6年度は61施設に導入予定 (コストは約1.1倍かかる)。
再エネ100%電力を利用したEV導入	200台ある公用車のうち、 27台を順次EV化予定 。R5年度は充電設備を5台設置。
本庁舎内へのウォーターサーバーの設置	マイボトル利用を促進 。R4年度利用水量13,443L。R5年度は11施設に設置拡大。リース料は7～8,000円/月。

3. 今後の課題

課題	現状と今後の対応
ペットボトルの水平リサイクル	回収業者に推奨しているが 再利用状況は不明 。先般 サントリーからオファー があり、検討していく予定。
区民の意識定着	再エネ・省エネ設備の普及 が課題。
公共施設のゼロエミッション化(※ZEB化=ネット・ゼロ・エネルギー・ビル) ※日射遮蔽・自然エネルギーの利用、高断熱化、高効率化により大幅な省エネを実現した最先端の建築物。	推進するが 建設コスト上昇 が課題。
区、区民、事業者が一体となった取り組み	CO2削減値は都の管理の為、タイムリーに管理できない 。パネル等により進捗の可視化をはかりたい。
屋内外照明のLED化	学校や屋外照明を先行実施。その他については R6年度より計画的に進めていきたい 。

所感: 板橋区はゼロカーボンシティの実現をめざすにあたり、板橋区地球温暖化対策実行計画を策定し、様々な取り組みを進めていた。その中で、ウォーターサーバー設置によるマイボトル利用の促進など、都市部ならではの取り組みが印象に残った。設置コストもさほどかからない為、刈谷市にも導入を提案していきたい。

視察報告書

発行No.	S-240117
作成日	2024.1.23
作成者	佐原充恭

視察地	千葉県野田市	日時	2024.1.17(火) 10:00~11:30
視察テーマ	PR推進室について		
視察目的	市長直轄のPR推進室を立ち上げ、積極的なシティセールスを展開する同市の取り組みを学ぶ。		
視察メンバー (敬称略)	深谷英貴、中嶋祥元、鈴木定晴、佐々木隆教、伊藤愛恵、佐原充恭(記)		

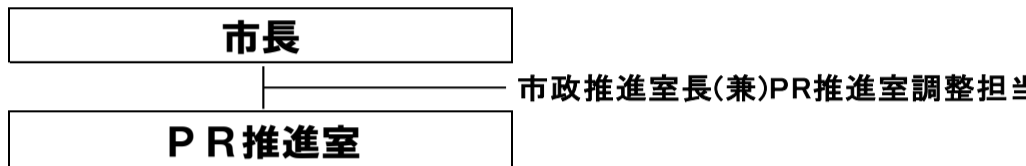
1. PR推進室設置の経緯

出典: 当日頂いた資料及び野田HP

東京から30km圏内にあり、歴史、文化、自然が調和している野田市の魅力が、市内の連携が取れていない事等により十分に発信できていなかった。そこでR4.4.1に「PR推進室」を発足させた。

2. 組織体制(3課のPR業務を集約し、市長直轄セクションとして設置)

戦略: 市民に野田市の良さを知ってもらい市内外に発信。また、職員が市域の隅々まで出向き、地域と交流しながら情報を発信し、人々を名所や店舗に呼び込む。



魅力推進課	広報広聴課	商工観光課
シティプロモーション、自転車を活用したまちづくり(立教大とのコラボ)、ガイドツアー、フィルムコミッション、インスタ、LINEスタンプ等	市報発行、ホームページ、SNS(Facebook、LINE、Youtube、X)、記者会見、プレスリリース、市政記録映画等	観光協会事務局、まつり、イベント実施、観光ガイドブック発行、将棋普及事業(関根名人記念館管理運営含む)等

3. 活動内容

区分	主な活動内容	
PR活動	イベント参加	PR推進室職員が積極的に参加し、野田市の魅力、野田産米、枝豆などの特産物をPRする。
	イベント開催	5/3 市政施行日に「健康文化都市宣言記念式典」での演出、ポスター、パンフレット、のぼり、横断幕、懸垂幕等のデザイン作成。
	フィルムコミッション	TV朝日「じゅん散歩」、TV東京「モヤモヤさまぁ〜ず」、WOWWOW「華麗なる一族」、日本TV「私たちはどうかしている」「リハーサルオーケストラ」、TBS「ラストマン」「下剋上球児」などの人気番組、ドラマのロケ地を誘致。
	SNS活用	蓄積した情報をFacebookで「市民でも知る人ぞ知る市の歴史や地理に関する情報」と題して毎週末にクイズを実施。
	ガイドブック	職員手作りのガイドブックを広範囲に配布(都心の駅、空港、他市の道の駅など。R5年度は市民に全戸配布)。
	応援ソング	同市出身のナオト インティライミが応援ソング「The Day」を提供。駅の発車メロディや防災無線のメロディなどへの活用を検討中。
他部署との連携	職員募集ポスター・動画作成、開館した「のだしこども館」の施設内演出、鈴木貫太郎記念館再建のPR動画、子育て関連チラシ、各部行事の取材、情報発信など。	
著名人との連携	市出身のナオト インティライミ、五輪選手、落語家とのコラボレーション。	

4. 今後の課題

成果: 活動を通じ、PR推進室職員と市民や関係団体との人間関係が構築できた。

課題: 同室がまだ情報発信の中心的存在になりきれていない。推進室職員のスキルアップとともに、「職員情報発信力強化講座」や、カメラ撮影技術のレクチャー等を通じ、情報が発信できる職員の育成に努めたい。

所感: 冒頭から最後まで、鈴木市長自らご説明頂いた熱意に敬意を表したい。その理由は、野田市は東京圏域に程近く、生活しやすいにもかかわらず、その良さをPRできていないもどかしさと危機感の表れだと感じた。フィルムコミッション誘致も、懸命の誘致活動や人脈づくりの成果との事。刈谷市も危機感を持つべき。遅延気味ではあるが、リニア開通を見据えれば、刈谷市も名古屋駅やセントレアなどにPR広告を展開してはどうか。市に今一度、広域に向けたシティセールスについての考えを質していきたい。

視察報告書

発行No. S-240118

作成日 2024.1.23

作成者 佐原充恭

視察地 埼玉県吉川市 日時 2024.1.18(水) 10:00～12:00

視察テーマ 吉川市プレゼン力養成講座・吉川市児童生徒プレゼンテーション大会について

視察目的 大会開催等を通じ、児童生徒のプレゼン力をアップする独自施策について学ぶ。

視察メンバー(敬称略) 深谷英貴、中嶋祥元、鈴木定晴、佐々木隆教、伊藤愛恵、佐原充恭(記)

出典: 当日頂いた資料及び吉川市HP

1. 事業開始の経緯

- ・教育長の思い: 教育理念「すべての子どもたちが輝くために」に基づく取り組みの一環として推進。
- ・学習指導要領の改訂: 今の学校教育が通用しなくなる、人工知能が人間の職を奪うといった危機感。
- ・大西先生(本事業の講師)の思い

『Web1.0(HP等を見に行く時代)→Web2.0(SNSやブログで自ら発信する時代=現代)→Web3(分散した自律的な仕組みが、仕事や生活を変える時代)やVUCA(変化が激しく将来の見通しが立てにくい世界)へ移行すると、多くの人に**自分の思いや考えを自分の言葉で伝え、納得してもらえる技量**が求められる。デジタル機器や情報を駆使したプレゼンテーション力を早くから身に付ければ、来たる**デジタル社会を生きる大きな武器**となる(よしかわICT教育通信より抜粋)。』

2. プレゼンテーション大会の概要

- ・開催回数: R5年度で3回目。今年のテーマは「ギガ端末」。
- ・参加者: 小5～中3まで25名(自由参加)。グループでも1名でもOK。
- ・子ども達への指導: PBLプレゼンテーション講座を開催。
- ・プレゼン方法: googleスライドを使用。スライド数6枚。持ち時間5分。
- ・その他: NTT東日本や地元企業も協賛し、優秀な事例を表彰。



3. PBLプレゼンテーション講座の実施内容(R5年度)

回	日程	時間	内容
1	7月15日(土)	9:15～12:00	オリエンテーション
2	7月26日(水)	9:15～12:00	知識を深める・取材の計画を立てる
3	7月27日(木)	9:15～12:00	知識を深める・スライドを作成する
4	8月3日(木)	9:15～12:00	スライド作成・取材・まとめ
5	8月9日(水)	9:15～12:00	スライド修正・取材・まとめ
6	8月10日(木)	9:15～12:00	スライド修正・まとめ・発表の仕方について
7	8月23日(水)	9:15～12:00	リハーサル
8	8月24日(木)	9:15～12:00	リハーサル
9	9月2日(土)	8:25～12:00	リハーサル
10	9月9日(土)	8:25～16:00	大会本番

様々な視点
でノウハウ
を伝授しま
す!

ここで作っ
た資料で
大会に臨み
ます!

・指導のポイント

資料づくりは、児童生徒の**自主性を尊重**する、原稿に頼らず相手に伝えるプレゼン力を育成する、**自分の発言に責任を持つ**よう指導する etc.

4. 今後の課題と対応

指導できる人材の育成、発表する児童生徒の削減(25人発表すると大会が長丁場になる為、リピーターの削減を検討)、大会のライブ配信(会場の吉川市民交流センター「おあしす」多目的ホールに聴講者が入りきらない)、身に着けたスキルの大会後の活用、他市との連携 etc.

所感: スティーブ・ジョブズ風のプレゼンテーションはグローバル企業ではもはや定番。「自分が言いたい事を簡潔かつ的確に」「難しい事柄を要約してわかりやすく」聞き手に伝えるスピーチやプレゼン資料作りには訓練やセンスが必要で、社会に出ると必ずこの壁に突き当たる。このプレゼン力を早期に伸ばす教育は大変有効だと感じた。また、言いつ放しのパフォーマンスに終わらないよう、自分が言った事や提案に責任を持つよう指導されている事に感銘を受けた。刈谷市がこの取り組みをどう考えるのか確認してみたい。